

ジャパンパラ陸上 岐阜で開幕

県内初開催となる、国内最高峰の障害者陸上スポーツ大会「ジャパンパラ陸上競技大会」が二十日、岐阜市の長良川競技場で二日間の日程で始まった。

一年後に控えた東京パラリンピックをにらみ、有力選手が多数出場。初日は、クラス別の100メートルや400メートル、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げなどがあった。二十一日は、走り幅跳びの世界記録保持者で、リオパラリンピックの金メダリストのマルクス・レーム選手（ドイツ）が出場する。入場無料。

各務原の石田選手 日本新

パラ陸上界のニュースターが、長良川競技場を二度も沸かせた。上肢切断や機能障害のあるT46クラスの100メートルと400メートルに出場した愛知学院大二年の石田駆選手（各務原市）が、両種目で日本記録を出した。

大学に入学したばかりの昨年四月。走っていると左肩に「違和感を感じた」。検査結果は骨肉腫で、昨年六月に手術を受けた。

T46クラス 100、400メートル

十二月から練習を始めた。パラ陸上の大会では、好記録を連発。この日も100メートルでは、日本記録を0・05秒縮めた。十一月にドバイである世界パラ陸上選手権大会の派遣記録も突破した。

一方、400メートルは自身が持つ日本記録は更新したが派遣記録には届かなかった。「残り100メートルで左ふくらはぎがつった感覚があり、変に意識してしまっただ」と悔やむ。「八月のパリの大会で良い成績を残したい」とリベンジを誓う。

一年後の東京パラ出場に加えて、大学四年で全日本インカレに出場するのが目標だ。「健常者の中でも結果を残したい」。大学入学時に定めた夢は、あきらめていない。（高橋貴仁）



T46クラス100メートル決勝で日本記録を更新した石田選手（長良川競技場で）